

「栗駒火山の完新世テフラ 明治から存在していた昭和湖」の一部訂正

Some corrections for Holocene activity of Kurikoma volcano, northeast Japan by Kumai and Hayashi (2002)

林 信太郎[1], 熊井 修一[1], 藤田 浩司[2]

Shintaro Hayashi[1], Shuichi Kumai[2], Koji Fujita[3]

[1] 秋大・教文・地学, [2] アジア航測

[1] Dep. of Earth Sci., Akita Univ., [2] Dep. of Earth Sci., Fac. of Edu. and Human Studies, Akita Univ., [3] Asia Air Survey

<http://www.ipc.akita-u.ac.jp/~hayashi/hajime.html>

栗駒火山は秋田-宮城-岩手県境に位置する活火山である。熊井・林(2002)は昨年の本合同学会(V032-P008)で栗駒火山の完新世の水蒸気爆発堆積物について報告した。その後の調査の結果、その結論の一部に訂正すべき点が見いだされたので報告する。

熊井・林(2002)は、大井上(1908)に掲載された地形図を用いて、彼が記載した剣沼を昭和湖と同定した。しかし、現地踏査・及び大正時代に測量された旧版地形図により詳細に地形の比較を行なったところ、昭和湖に対応する場所は湿地であったことが確認された。熊井・林(2002)は、「昭和湖は少なくとも明治36年には存在していたことがわかる」と述べたが昭和湖に対応する低地は存在したとは考えられるものの、水量は湿原程度で湖自体は明治36年には存在しなかったと考えられる。

なお、熊井・林(2002)が述べたように、昭和湖付近に小規模に分布する、テフラ Krk-a が1944年(昭和19年)11月の噴火に伴う降下テフラであり、昭和湖のような100mに及ぶサイズの火口地形を形成したとは考えられないという結論に変更はない。したがって、昭和湖を形成する凹地の大部分は明治時代から存在し、昭和の噴火でこの凹地がやや拡大し、それをきっかけに水が溜まるようになったという可能性がもっとも高い。

また、熊井・林(2002)の他の結論については特に変更はない。